

間伐実践・環境教育部門 林野庁長官賞

Forest Good 2017 間伐・間伐材利用コンクール

宮城県柴田農林高等学校

(会社名・団体名等)

連絡先 (公表可能な範囲で ご記入下さい)	(住 所) 〒989-1233 (担当部署等) 宮城県柴田農林高等学校 森林環境科 (電話番号等) TEL: 0224-53-1049 FAX: 0224-53-1050
-----------------------------	---

取組の名称	小学校の学校林における高校生による森林学習交流会	
取組名称 の説明	小学校の学校林において、林業を専門に学ぶ高校生が、小学生と一緒に間伐作業と森林学習交流会をおこなう。	
取組のきっかけ	本校の所在する宮城県南部に位置する蔵王町立平沢小学校は、町の共有林を借り受け、50年以上にわたり住民達と共に学校林活動を行っている。約20年前に植栽したヒノキ林では、小学生達が年に1回下刈り作業を行い環境学習の場として活用してきた。しかし、現在では間伐期を迎えているが、小学生だけでは作業出来ず管理に困っていた。県内で唯一林業の専攻があり、卒業生も入学する本校に学校林管理と学習活動についてご相談をいただいた。	
取組内容・特徴	林業を学ぶ高校生(2年生)が日ごろ学んでいることを活かし、小学生(6年生)に森林の役割や人工林の手入れなどについて説明し、小学生と一緒に間伐作業を行う。前半(午前)は、森林に関することを紙芝居形式で高校生が説明する。その後、アイスブレイクとして、昨年間伐した丸太を手鋸で切り「木メダル名札」づくりを一緒に行う。昼食は、小学生が調理実習で作ってくれたおにぎりを一緒にいただき、交流を深める。後半(午後)は、班に分かれ高校生が間伐のやり方を説明し伐倒する。伐倒後の枝払い、玉切り、集材作業を手鋸で小学生と一緒にを行う。木材は小学校での木工材料にしたり、高校での中学校体験入学時の木工体験(コースターづくり)用の材料として活用したりしている。尚、小学生達はこの交流会で学んだことを森と海の小学校間交流で紹介する取り組みも行っている。	
実行体制・安全対策等 (他団体との連携状況を含む)	長袖・長ズボン(高校生は実習着、小学生は体育着)、保安帽(高校生はヘルメット、小学生は自転車用ヘルメット)、長靴、軍手を着用する。チェーンソーを利用する場合は、チャップス等の安全装具を身につける。高校生4~5名、小学生2~3名の班に分かれて行う。本校の専攻教員2名、小学校教員3名程度がそれぞれ分担して各班を援助する。作業の注意事項を事前に説明。伐倒作業は、小学生は見学とし、高校生が行う。尚、高校生は事前に本校演習林にて地元の森林組合等の協力を得ながら間伐実習を複数回おこなっている。	
実績	除間伐実績	0.4haのヒノキ林(1997年植栽)において年1回10~15本程度ずつ間伐している。道具はチェーンソー(高校生のみ使用)、手鋸(高校生・小学生)
	環境教育	森林の役割、学校・学科紹介、森林の機能、森林の管理作業、間伐について、森林での注意点などについてパワーポイントでスライドを作成、印刷し、紙芝居形式で小学生に説明する。
取組による効果等	本年で3年目となるこの学習交流会は、単に間伐作業を行うのではなく、山間地にある小学校の子ども達にとっては身の回りにある森林について、役割や手入れについて学び、森林や林業へ興味をもってもらう機会となる。高校生にとっては学んでいる専攻学習の深化と地域貢献につながる。将来、参加した高校生や小学生が地域と林業の担い手に育つことを期待したい。	
製品等の写真、図表	 	
	小学生に森林の役割などについて説明する 作業を一緒に取り組む。伐倒は高校生が担当。	